

受講生の声!!! H30 年度受講生から



TMGあさか医療センター 麻酔科
成島 光洋（医師）

①本養成講座の受講によりその後の業務（マネジメントもしくはデータ分析）にどう役立てられたか。もしくはどう役立てられそうか。

本講座を受講した主とした動機、入院サポートセンター立ち上げからその有効性を検証していくにあたってのPDCAサイクルの構築の方法は、なんとか入り口に立てたかと思います。それ以外の業務でも、もともと関わっていた医療安全対策委員会における活動や、本年受審した医療機能評価の対策委員会の委員長としての役割を全うするにあたり、大変役立ちました。方法論だけでなく、その背景にある考え方を見直す、ということができるようになったと、実感しています。医事課などの事務部門のスタッフ、看護部をはじめとした他のコメディカルスタッフとも、議論するために必要な情報の整理が行えるようになり、わかりやすく建設的な話しができるようになった、と感じています。

②本養成講座を受けた感想

個人で独学によるバラバラな学び方をしていたら、結局独善的な方法に陥っていたであろうことが予想されます。系統的に（かつある意味強制的に）必要な分野の学びの入口を講義で教えていただいたこと、および実習を通してその知識や方法を体感させていただいたことで、実際にやる、実行に移せる・改善のサイクルを回すことができるのではないかと、いうところに立つことができたと感じております。実際に活動していく中で、Checkして評価を行い、改善へのプラスのスパイラルを発生させられる、実効性のあるシステムを構築していかなければならない、と考えております。

また、分析して、計画を立案して、行動に移す、ということを実臨床を行いながら並行して行うことは結構な困難を伴います（時間と影響の範囲）。しかしながら、実際に実行に移すためには、臨床の現場を知っていることも必要になりますので、こういったクオリティマネジメントを実行していくメンバー（同じ視点を持ち、行動を起こせるメンバー）を増やしていく必要がある、ということも痛感しました。

③本養成講座に対する意見や要望

AccessやTableauといったソフトについて知ることはできたのですが、習熟する、という段階までは至ることができませんでした。ソフトを大学外での環境でも使えるようにしていただけたら、ということと、ソフトの操作・実習を追加選択で受講できるか、自由課題の宿題のような形で習熟のための課題のようなものがあると、より実効性が増すかと思いました。

日曜日に開講していただいたので、勤務しながらでも受講が可能でした。ありがとうございました。ウィークデーの開講については遅刻せざるを得ませんでした。もう少し遅い時間での開講か、週末での開講をしていただけると参加しやすいかと存じます。

経営的な側面の視点を組み込んだ内容も加えていただけると、より経営陣への提言も行いやすくなるかと存じます。ありがとうございました。

国家公務員共済組合連合会 病院部（兼）日令病院部
佐藤 顕子（看護師）

現在病院団体本部で医療安全を担当しており、各病院の課題に対してどのように支援できるか、現状各病院が持ちうる様々なデータから課題を「見える化」できるのではないかと受講しました。講座のプログラムは、テーマごとに課題に対する発表を行う形で進められ、同じ受講生の発表から新たな課題への気づきを得たり、今までの固定化した見かたに対して、柔軟な発想が必要であるという刺激を受けました。実際にDPCデータの活用方法もさることながら、どのように組織の中で課題に対するPDCAを回していくか、国立病院機構の見学も参考になりました。

今後は主に「転倒・転落」による事故を減らしていくために、現在各病院が使っているアセスメントシートの項目についての検討を進め、リスクに応じた対策が立案できるようにデータの活用をしていきたいと思っています。



東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 医療政策情報学分野

宇田 晃仁（大学院生）

現在、私は東京医科歯科大学の医療政策情報学分野研究室にて医療ビッグデータを用いた臨床疫学及び医療経済学の研究・学習に取り組んでおります。研究を進めていく上で、医療ビッグデータを用いた研究や分析手法に関する学習を深めたいと思い、本 PDCA 医療クオリティマネージャー養成プログラムを受講いたしました。受講を通じて、まず DPC 調査データの構造を基本から勉強することができたのは自身にとって非常に大きく、研究を進めていく上でもとても有益な知識を得られたと感じました。ダミーデータや実際の病院データを BI ツール等の様々なソフトを使用してハンドリングしながら、DPC 調査データが持つ特徴の一端を理解することができとても有意義なものでした。また自身が深めたいと考えている臨床疫学や医療経済学の領域だけでなく、実際に病院経営・病院事務に携わっている方達が、自院や所属地域の医療ニーズや PDCA サイクルから見た改善点がどこにあるのかを DPC 調査データを通して検討・発表されている内容を聞き、医療現場において病院情報などのように取り扱われており、どのような考え方に基づいて病院経営・医療マネジメントがなされているのかということも学びました。今後、本プログラムで得た学びを大学での研究や職場に持ち帰り活かしていきたいと思います。

学校法人聖路加国際大学聖路加国際病院 臨床検査科

佐々木 友紀（臨床検査技師）

私は修士課程の医療管理政策学（MMA）コースを修了した後、先輩の勧めでこの講座を受講しました。医療現場にどのようなデータが蓄積されているのだろう、そのデータをどのように活用するのだろう、どのように用いれば適切な意思決定の根拠となるのだろう等と漠然と思っていました。勿論 MMA コースでも医療データに関する講義はありましたが、実用的な解析方法までは十分に学ぶ余裕がなかったため、もう少しデータを扱うようになれたらいいなと思い、思い切って飛び込みました。上半期はほぼ毎週末講義があり、講義毎に課題発表があり、何をどのように話すか悩みながら、追われるようにこなしていくうちに、あっという間に最終課題発表を迎えたという感じでした。知識も経験も豊富な講師陣と受講仲間からのフィードバックやディスカッションを通して、自分も少し成長できたような気がしています。まだまだデータを活用する技術は足りませんが、一臨床検査技師の視点から医療の質の向上と向き合っていきたいと思っています。講座を修了した今、ルーチンワークに埋没されがちなので、今後も学ぶ機会を持ち続けることが課題です。

鳥取県立厚生病院 医事課

岸本 洋一（診療情報管理士）

平成 20 年に以前の勤務先病院で DPC 導入準備等に携わりデータ作成・提出に関わる中で、作成後のデータ分析や活用を志向していましたが、全て独学で伏見先生をはじめとする先生方の著書からデータ集計や分析のトピックスを紙面上で読むのみで、データの利活用については実務レベルに落とし込んでいない状況でした。そんな中で、平成 28 年 9 月に開催された「医療クオリティマネージャー養成事業公開セミナー」で本養成講座と出会い、本年度から土日を中心とするプログラムへ改定されたことで遠隔地の鳥取県からの受講が可能となりました。本講座では医科歯科大のデータをサンプルとして用いた講義・演習・課題発表を繰り返すことでデータ処理や分析の方法論の実務を体系的に体験することが出来ました。また病院実習では実際に PDCA サイクルが行なわれている現場を肌で体験することができ非常に良い経験となりました。現在の所属施設では医事課という診療報酬請求にフォーカスした部署に配属されていますが、本講座での体験を自施設に置き換え、日々生成される DPC 等のビッグデータから PDCA サイクルを志向する組織風土の醸成に繋げていけるように、旧態然とした医事課目線に囚われず、医療の質の可視化・改善に関わっていきたいと考えています。

最後になりましたが、夏季の平日の夜間授業の際、日中の自習室の確保など、大変御世話になった QMC の黒河内さんに心中より感謝申し上げます。

①現在医療政策に係る直接の業務を担当しています。地域の医療資源を分析し、将来にわたり必要な機能やその量、配置などを考えるにあたり、本講座で学んだ手法を活かして、根拠に基づいた政策立案に活かしていきたいと思っています。地域医療計画は関係者同士の話し合いが重要ですが、お互いの立場を越えて地域の医療従事者に、これからの地域医療はどうあるべきか、主体的に考えてもらうための共通知になるような資料を提供できればと思います。

②今回からほとんどの授業が週末に集約されたことで、確実に授業が受けられるようになったことはとても良かったです。様々な分析手法を教えてくださいますが、授業のスピードが非常に速いので、欠席する時間が出るとわからなくなってしまいます可能性があります。平日の仕事に影響が少なく受講できることは、大きな安心になりました。

受講生も先輩も、優秀で熱心な方が多く、交流の機会が持てたことは、今後の大きな財産になると考えます。

病院の訪問実習も、なかなか見る機会のない地方の国立病院の状況を詳しく学ぶことができ、首都圏とは違う地域医療の姿を感じることができました。

③最先端の分析技術を教えていただけ、実務家の授業も多いので大変実践的で刺激になりました。可能であれば、課題作成とは別で週末開放で自主的に演習を行う時間を取れば、より効果が高まると思いました。一部の分析ソフトは学内でしか使えず、個人で買うには高価なため、学生扱いとして使用ができるようになれば助かります。

最後に、伏見教授、森脇先生を始め、講師の先生方には大変感謝しております。

限られた時間ではありますが、講師の先生方はどなたも根気よく丁寧に教えてくださいました。今後は教えていただいた知識・技術を実践の中で動かしていくこととなりますが、引き続きご指導いただきたいと考えております。

地域の医療をどうしていくのか、病院の今後のあるべき姿とは。

単純には答えの出ない、この難しい問題に対し今後も問い続けていかなければなりませんが、これが一部の行政関係者や医療に関する仕事を行う人だけではなく、広く一般の人々にも理解・関心を持ってもらえるよう、今後も研鑽を続けてまいりますので、今後ともよろしくご指導ください。

本当にありがとうございました。

私は、医療従事者ではなく、東京医科歯科大学大学院医療政策情報学分野の社会人大学院生で、医療データの分析を志す者として参加させていただきました。

講義では、DPC 制度の成り立ちから DPC データの構造、データ分析の事例まで体系的に教えていただきました。これまで厚生労働省の公表資料等から断片的に情報を得ることはできても、体系的に学ぶ機会はありませんでしたので、大変勉強になりました。

また、実際のデータを用いた演習では、エクセル、アクセスを用いた分析手法から高機能な BI ツールである Tableau を用いた分析手法まで、様々な角度で実践的に学ぶことができました。ツールの使い方を教えてもらえる機会というのは社会人にはなかなか得られないもので、独学しかしてこなかった私にとっては、この講義を受講していなければおそらく一生知ることのなかったエクセルの使い方や存在すら知らなかった BI ツールの使い方を教えていただいたことは、とてもありがたく、今後の自分の分析に大いに生かせると思います。

さらに、病院実習では、実際に PDCA サイクルに基づく医療の質の改善事業に取り組む病院を訪問し、院内の各部門を見学させていただき、クオリティマネジメント委員会の会議にも参加させていただきました。医療の世界を知らない者には感覚的に理解がたかった医療の質の改善活動がなかなか進まない理由、改善活動を積極的に推し進めたい事務職と“お医者様”として存在する医療職という構図を直接感じ取ることができました。

そして、このプログラムを通して、いろいろな職種を受講生とともに学び、身近に意見交換ができたことは、普段知り合えない様々な立場の方々の考え方や視点、感覚を知る貴重な経験であり、一番の収穫であったと思います。

今後は、ここで得られたスキルと感覚と人脈を自分の分析に生かしていきたいと思っています。

一年間ありがとうございました。